

リヨン第三大学留学レポート -2月-

中須賀月香

年が明け、気が付けば留学も折り返し地点を過ぎました。リヨンは寒くて晴れない日が続いています。冬は松江と天気が驚くほど似ていて、晴れた日には何かしなければならぬ使命感にかられる日々です。

さて、今回も日常生活と学習面について、前回から2カ月分振り返っていききたいと思います。

・日常生活編

社会保障、住宅補助、移民局、銀行関連、など様々な手続きをしてきましたが、ようやくすべての手続きを終え、今はほっと一息ついています。予め、情報収集し、うまく運ぶようにしていましたが、それでも予想外のことは起きるため、それに応じて動く必要があります。これらについては前回、前々回と書いたので省略します。終わってしまえば不思議なもので、どんなに大変だったことでも、いや大変だったからこそ、いい思い出、経験に変わります。結果、せかして急いでしてもらおうようにする術も習得しました。

続いて、今回は少し旅行について書きたいと思います。一段落したところで、バカンスを利用して、リュック1つだけで一人旅に行きました。ヨーロッパはLCCが発達していて、交通費が低価格で済みます。せっかくヨーロッパにいるのだから、今のうちだ、自分の貯金の許す限り行こう、と決めたからには即行動です。フランスのTGV（日本の新幹線にあたる）は前もってチケットを買ったり、カルトジュヌヌという若者向けのパスをあらかじめ購入しておいたりすることで、信じられない価格でのチケット入手が可能です。学生にとって重要なのは費用です。バス、鉄道、飛行機等、様々なサイトを比較しどう行けば一番費用を抑えられるかを考えるのは大変面白くすべてフランス語なので勉強にもなりました。

そして最後に、毎日の過ごし方については、最近は栄養を考えたメニュー、早寝早起きといった規則正しい生活を送っています。というのも、こちらのおいしいパンを摂取し過ぎたため体型変化が起き始めているからです。パン屋が本当に多く、歩いていて匂ってくるバターの香りはたまりません。焼きたての温かいバゲットのカリッとモチっとした食感、クロワッサンやパンオショコラのサクツとした食感の後にくるバターの香りは格別です。それにプラスしてエスプレッソの香りも漂いとてつもなく幸せな気持ちになれます。こんなにおいしいパンを食べられるのはフランスにいる特権だと思います。

・学習面

1月から後期が始まりました。現在とっている授業は、フランスの文化・歴史の授業、フランス語の授業、和仏訳、翻訳の授業です。フランス文化・歴史の授業は資料が授業後に自分で印刷するようになっていたため、授業時は先生が話していることを集中して聞き、

メモを取ることが必要で少し大変です。しかし、前期は資料が無かったら先生の話していることを理解することはほとんどできなかつたのですが、現在は途中で辞書を引けばほぼ内容は理解できるようになりました。少し進歩です。内容はフランスの歴史だけでなく、移民問題、経済、政治、文学、音楽など多岐にわたっていて大変興味深く、一番個人的には好きな授業です。復習が少し大変ですが、興味があると苦でもありません。続いてフランス語の授業についてです。学期中に一度プレゼンをしなければならぬのですが、前期は思ったようにフランス語をすらすらと話せず、悔しい思いをしました。後期にもその機会、チャンスがまたあるので、次は聞き手にしっかり伝えられるように準備をして挽回します。

フランス語を聞く分には耳が慣れてきたのですが、話すとなると時差がまだあります。その度に悔しさを感じるのでたくさん口にして、時差を縮めていきたいです。

・まとめ

帰国が見えてくると、残りたい、まだいたい、という思いが強くなるばかりです。手続き等大変なことがある一方で、暮らしぶりにはすごく惹かれています。一般には冷たいと言われがちなフランス人ですが、そんなことはなく、人情味あふれた人たちばかりで、困っているときは本当に親身になってくれて、温かく、またそれぞれに人生を楽しんでいるのが伝わってきます。ここに流れている空気が、雰囲気が好きです。帰国までの残されたフランスでの日々を毎日悔いの無いように過ごしていきます。



ライトアップされた夜の大学



ソーヌ川沿い